

## 実践例「学校・学級経営の深化・充実」

### 「課題3 地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して豊かな心を育む教育活動の創造・推進」

#### I. 学校名 せたな町立若松小学校

#### II. 研究の概要

##### 1 地域及び学校の状況

- せたな町市街地から約6km、緑豊かな田園地帯を南北に貫く国道229号線沿いに位置し、基幹産業は、稲作・畑作・酪農。児童数の減少傾向が続いている。現在、4学級12名の児童が在籍。内1学級は特別支援学級で平成24年度に開設した。子どもたちはとても素直で、明るく思いやりのある子が多い。保護者も地域も学校に対して、とても協力的である。

##### 2 研究主題 主体的に学び主体的に行動する子どもの育成

～認めて、ほめて、励まして、信じて、待って、見届ける～

##### 3 主題について

本校の子ども達は、学習への取り組みは真面目であるが、目的や意図に合わせた表現が得意ではない子が多い。これまでの研究を通して、聞く態度や事実を伝えることは良くなってきた。しかし、伝えることに関しては、自分の気持ちや考えを混ぜながら発表することには苦手意識がある。それらの課題を克服していくためにも主体的に学び、主体的に行動していく、子どもを育むためにこのような主題を設定した。この主題は今までの研究の成果を発展させるものと考え、児童一人一人が入学してから卒業するまでに身につけさせたい力として押さえたい。

##### 4 めざす子ども像

- ①やるべきことが分かり、進んで取り組む子ども
- ②自分の思いや考えを互いに伝え合う子ども

##### 5 研究の仮説

- (1) 学ぶ意欲を引き出す授業を作ることで、主体的に学び主体的に行動する子どもになるのではないか。
- (2) 自ら考え、係わり合いを意識した学習活動を工夫することで、やるべきことを理解し、手順を考え改善を図る子どもになるのではないか。

##### 6 研究内容 (主なもの)

- (1) 上記の教科の研究。
- (2) 教科研究とは別に、キャリア教育の推進の1つとして「地域との関係を構築し、地域の教育資源を活用した特色ある学校経営を進める」ために以下のようなことに取り組んでいる。
  - ① 農業体験、収穫感謝祭  
校区内に町の農業センターがあり、農業センターの協力の下、総合的な学習の時間などを利用して農業体験学習を行っている。センター職員の指導の下、植えから草取り、間引き、収穫まで、体験させてもらっている。そして、収穫したものを使い、農業センター職員や学校での活動でお世話になった地域の方と保護者を招いて、収穫感謝祭を行っている。自分たちでメニューを決め、1食分の給食として調理をして、一緒に食事を



する。その後、学んだことを学級ごとに発表することで表現力を高めると同時に多くの方に感謝する心を養っている。

## ②百人一首

若松地区は福島県の会津若松からの開拓民の流れを汲む地域である。北海道で行われている百人一首(下の句かるた)は、もともと会津若松から伝わる遊びの1つで、冬の時期に家の中で遊べる遊びである。

そのかるたを冬の時期に全校児童がクラブ活動で取り組んでいる。また、読み手として、地域の方に来ていただいている。そして、子ども会(保護者)主体で、年初めに、若松かるた大会をひらき、他の地域の子どもや保護者も一緒に楽しんでいる。



## ③けん玉

これも冬の遊びの1つであるが、伝統的にけん玉に取り組んでいる。冬季のクラブ活動として、百人一首のあとに取り組んでいる。上記の百人一首もそうであるが、高学年がやさしく低学年に教えたり、保護者が本校出身という場合が多いため、家庭で練習をしてくる子も多い。発表会も行い、保護者にもみてもらっている。



## ④稲刈り体験

今年度入学した保護者から、「うちの田んぼ貸すから、子どもたちに稲刈り体験させてみないかい？」と声をかけていただき、さっそく低学年が体験に行った。4人で体験してきたのだが、30分かけて刈れたのは、田んぼ1反の10分の1ぐらい。

それでも今は機械で行っている稲刈りを自分たちで体験できて、昔の農業の大変さを少しは感じてもらえたと思う。そのあと、学校に稲を持って帰り、天日干しをしたあと、脱穀。天日干しまでは、地域の方の協力のもと行った。そのあとの脱穀は、茶碗を使って少しずつと考えていたが、刈り取った稲の量を考えると、終わらないので、千歯こきを農協から借りて体験した。その後の粳すり、精米は地域の方をお願いしてやってもいただいた。そのお米は上記の収穫感謝祭で高学年担当のご飯として使用。今後は田植え体験も挑戦させたいところであるが、その第一歩としての体験として有意義であった。



## ⑤世代間交流

長期休業中の学習会を利用して、地域のいろいろな世代の方との世代間交流を行った。子どもたちが地域の方と直接会って、ゲームをしたりする体験を行った。また、敬老会に参加するときに、自分たちの発表だけでなく、地域の方への簡単なプレゼント(メッセージつき折り紙)を渡した。これは児童会が自分たちで考え、全校児童で休み時間に作り、当日に渡したのだが子どもたちの心の成長がみられた行事となった。



## (3) 成果と課題 (○が成果、●が課題)

○保護者の方から声をかけていただいて、稲刈り体験ができたのは、地域や保護者との連携という点から一歩前進である。次年度は地域の方をお願いして、田植え体験を行う予定である。お祭りなどの地域行事に参加し、さらに交流を深める中で実現していきたい。

○子どもたちが自分たちから進んで地域のお年寄りの方の敬老者のことを考え、敬老会に参加し行動できたことは、いろいろなふれあいを通して地域の方を身近な存在と捉えることができたからだと考える。

○行事に取り組むときに子どもたち一人ひとりに目当てを持たせて取り組むことも有意義であったと考える。

●授業の進度や行事などを考えると体験活動の時間の確保がなかなか難しい。